

☆ クリスマスメッセージ ☆

< 第二次大戦中のアウシュビッツでの出来事 >

終戦も近くなり、食物も少なくなり、収容所の中の囚人たちへの配給も毎日とはいきませんでした。同じ部屋に、父と息子が入れられており、二人は皆がうらやまほど愛し合って生きていた。

囚人たちの最大の関心は、食事を得ることでした。

配給の時、多い少ないで争い合いました。

次は、あてのない次の食事が来るまで、どのように持ち続けるかでした。それほどわずかの食事でした。

ある時、父親が隠した食べ物が何者かに盗られました。

やがて犯人が自分の息子だとわかったとき、それまで元気だった父親は、三日後に点呼に出て行けなくなりガス室へ送られました。

(「エリ・ビゼール」より)

人の「命」とは、心臓の鼓動や脳波の波形があることではありません。

命は、個人の中に存在するものではなく、

誰かとの、「継がりと交わり=愛」の中にあります。

父親の命は、息子との間にある「愛」でした。

父親は、なぜ命を失ったのでしょうか。

それは、信頼していた息子と断絶し孤独になったからでした。

人の死は、「断絶と孤独」のことです。

あなたは命を持っていますか。それはどんな命ですか。

家族や友人や知人ですか。しかし、自己中心な人同士の継がりと交わりは、本当の命とはなりません。

クリスマスは、神があなたと継がり交わるために、イエス様を人類に送ってくださった記念の日です。

人は死ぬために生まれたのではなく、

神の中で永遠に生きるために生まれたのです。